

# ともに知ろう！ イラクの今を


ジャーナリスト玉本英子が見つめた戦場の実態



モスル市内での検問

2003年、アメリカ・イギリス軍による攻撃以来、流血が続くイラク。アジアプレス所属のビデオ・ジャーナリスト玉本英子さんは、今年も2月から6月にかけてイラクでの取材を続けました。

そこで見たものは、都市部からもいまだに撤退していないアメリカ軍の実態や、復興の陰で苦しむ女性たちの姿でした。



装甲車内の玉本さん

こうしたイラクの現状は、日本の大手メディアからはまったくと言っていいほど伝えられていません。武蔵大学では、今年2月に首都バグダッドと北部のアルビルをナマで結び学生同士の対話をおこないました。それに引き続き、今回は、玉本さんが撮影した貴重な映像をもとに、イラクに何が起きているのか、私たちは何をすべきかを、学生と市民の方たちがとともに考える場としたいと思います。

当日は、玉本さんが持ち帰ったイラクコーヒーを、少し味わっていただく時間も用意しています。

8月28日（土）13時～15時30分

武蔵大学6号館 6201教室

主催 武蔵大学総合研究所

協力 練馬・文化の会 放送を語る会 / 担当 武蔵大学社会学部 永田浩三研究室

E-mail:knagata@cc.musashi.ac.jp / TEL:080-6507-7377